

新産古稽

東北合気道連盟会長
白田 林二郎

稽古の徳で 日々新たなる 自己創造を産み出せ

道 歌

正勝 吾勝 御親心に 合気して
教い 生かすは 己が御魂ぞ
太刀振るい 前にあるかと 獲い来る
敵の後に 我は立ちけり
惟神 練り上りたる 御剣は
澄もよ 光れよ 神の愛に

合気道とは

合気道統を正しく普及し、正しく護守する師範たる者、車流我説は無用ばかりでなく巨流と我説は、合気道愛好者への冒瀆である。方便を説く勿れ、唯一筋に一直然に開祖を説き、愛好者の育成と師範の自覚を持つのみ。

開祖曰く、「おしの話はわからなくてもよい。お前達の守護神がチャント理解して、大笑喜んでいる。そのうち、わかる」と。

◆合気とは

開祖曰く、「合気とは、昔の武術家も云っていた人があるが、私が唱える合気道は古武道家が云った合気と全然違う」と言っておられた。

開祖曰く、「合気とは、敵と闘い、敵を破る術

ではない。世界を和合させ、人類を一家たらしめる道である。合気道の極意は、己を宇宙の動きと調和させ、己を宇宙そのものと一致させることである。合気道の極意を会得した者は、宇宙がその腹中にあり「我即宇宙」なのである。

私は、このことを武を通じて悟った。

いかなる速技で敵が襲いかかっても、私は抜けない。それは、私の技が敵の技より速いからではない。これは、速い、遅い、の問題ではない。はじめから勝負がついているのだ。敵が宇宙そのものである私（宇宙と一体の自分）と闘おうとすることは、宇宙の調和を破ろうとしているからだ。すなわち、私と争うという気持を起した瞬間に敵はすでに負けているのだ。そこには技が速いとか遅いとか云う、時の長さが全然存在しない。

合気道は無抵抗主義である。無抵抗なるが故に、はじめから勝っているのだ。邪気のある人間は、はじめから負けているのだ。

（武声合気 第12章 初項より）

■合気道とは

本部大道場の「合気道 盛平」の大掛軸を拝する毎に、一種異様な雰囲気を感じるのには私だけではないだろう。開祖の写真と「合気道」を正室内視する時、平身低頭の拝礼をせざるを得ない。胸中込み上げる熱い感情が湧く。

合気道とは……

1. 読んで字の如し、気を合わせる道、気を結び合う道、天・地・人の気結び道、天地人、気産靈の道、天地人一体の道、宇宙との合気、我即宇宙
2. 心と心を結ぶ道、気と気のイキ結び、生産靈の道。生命の自覚
3. 和合の道、調和の道、世界人類の調和、共に生きる道、天地人の調和道
4. 争わざる道、無抵抗主義、不敗の道、闘争心消滅の道
5. 正勝吾勝の道、神武不殺の武道、相生の武

道、相手を生かす武道。完全勝利の道

6. 武は愛也、みそぎの武道、鎮魂の武道。道歌 気のみおぎ 魂の鎮めや みそぎ技 導き給え天地の神

7. 祈りの武道。平和の祈りの中で、己人の幸の祈願。世界が合気で結ばれますように。開祖が岩間には、合気神社建立の目的は。開祖の朝長夜の無我の祈りは。開祖のお部屋は、明治天皇(軍服姿の明治大帝)、大正、昭和天皇の衣冠束帯の三体のお写真が現在も飾られ奉祭されているのは、聖母の萬々歳と日本の彌栄の祈りであろう。

私説 剣聖、宮本武蔵の神霊に対する五輪の書中の観念は如何。武蔵は沢庵禅師により開眼したと小説は云っているが、林崎居合術の剣聖は、神明神社に祈願して開眼した。憂心流祖は、八幡様に祈願して、揚心流を開眼した。

開祖は、大本教出口王仁三郎師に師事して「惟神の道」の修業と武術の錬磨により「武は愛也」を開眼する。大宇宙存在の道を説き、大宇宙創造の愛を説く。その根元をイホス元皇天御祖大神の活動が一氣三元四魂八力の妙用、大宇宙の言霊のヒビキの妙用等大宇宙天地創造の元玄妙妙を説く。更に人類救済として、人に神の了、神の生宮。人は生れ乍らにして神。顕達神三界、輪廻転生、人の生命は生き通し、死滅なし、三界神と共に在り。神に守護され導かれ向上開悟して、神人合一する。先聖哲、示啓の真理を看破して人心の安心立命を確立した。更に万物同根を説き、片言も巨炭も同根同仁、人の上に人を造らず人の下に人を造らず、主知万物を創造す。万物神の創造に依らざるはなし、と説く万物悉皆一靈の妙用。万物悉皆主神の手中にあり。道歌 美しきこの天地の御姿は主の創りし一家なりけり

◆ 和合の武道について

来らば、即ち迎え、去らば即ち送る。対すれば相和す。一・九の十なり、二・八の十なり、五・五の十なり。之を以って和すべし。まぼろしの

大剣聖、東一法眼の和の解説初段である。

開祖が、東京の現在地に皇武館道場開設当時より、よくこの鬼一法眼の和の解説を引用されて、お話をして下さいました。本館道場奥村氏が合気道新聞に発表されたことがあります。

これは、お客が来たら玄剣先まで出迎えなさい。去るお客は送り出せ。対すれば和、即ち和は受身ならず。前を持って進え打て。去るものは追うべからず。対すれば手うべからず。手出し無用武術的合気である。

開祖は「武は愛なり」、「宇宙即我なり」を説く時代になると、この説明はなさらない様になった。合気道は敵と闘い敵を破る術でないと視念して以来、宇宙との調和一致であると説かれ、この鬼一法眼の和の解説はなさらない。

◆ 無抵抗の武道について

「無抵抗なるが故に、はじめから勝っているのだ。(武蔵合気第12章)」

争わざる武道なるが故に無抵抗の武道。打たれず、切られず、受けず、止めず、なる故に無抵抗の武道。相手の刺槍を受けず上めず、触れず。相手の拳蹴を受けず、上めず、舐れず、咎々はせず、流す、空を打たせる。即ち、これを無抵抗と云うのである。

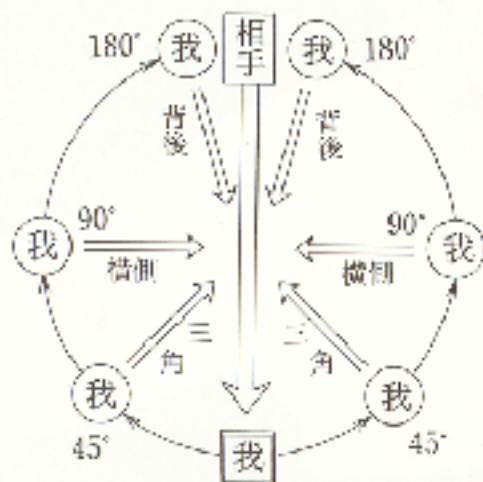
然らば如何にすれば良いか。即ち武術的には来るば即ち迎えよである。一瞬不敵の位置、打たれざる位置に不動身が直立する体観である。側背に人身転換する体捌き運動である。不敵位置に不動身の体観の間に、先づお迎の目遣し。直ちに最良の攻撃。故に相手は完全無防備の所を攻撃されるので、無抵抗。抵抗出来ないままに打たれ押えられる。即、相手に争う心起さない。争うにも争えない状態になり、争う心なくなる。即ち相手も無抵抗となり、何等抵抗することなく我に和合し、相手も一兵も損傷なし。相生きの武道。みそぎの武道。邪氣も争う心もなし。

「狂氣ある人間、争う心のある者、はじめから

白けている。(武産合気第12章)

私説 無抵抗主義とは、前記の通り①不敗の位置への不動身の移動と目潰し。②次に開襲を入れない最良の攻撃なるが故にはじめから札手は負けている。我は正勝吾勝である。

不敗の武道—不敗の位置への不動身への移動と目潰し。気抜きの時身側而又は背後に不動身を移しながらの目潰しと気抜きの当身。



具体的無抵抗の武術は
体捌。不動身の移動。
敵の攻撃には空を打たせる。
潰す。ハズす。スレ違ひ。

移動中、体捌中の当身は

1. 目潰しの当身
2. 気を抜く当身
3. 一撃必殺の当身はしない

理由 合気は和合、相生の武道。神武不殺、相手を生かす武道、倒す武術でない。

不動身の体捌と目潰し当身こそ、合気道の武術的特色である。これなくしては無抵抗の武術でない。故に合気道は、不敗の位置への不動身の体捌(側背への移動)と最良の攻撃の同時的武術。

注意 絶対に不動身の姿勢。腰を曲げるな、前かがみするな、下を見るな。押えた後も不動の尻だ。

道歌 美しきこの天地の御姿は主の創りし一家なりけり

美しき姿が合気道が。腰を曲げるな。

私歌 美しき合気の姿体捌無抵抗こそ正勝の道

● 従来の武術的勝負観念として

尻を斬らせて突を折る。肉を斬らせて骨を斬る。骨を斬らせて髄を折る。これを必勝と云った。

● 最良の攻撃とは

前述「無抵抗なるが故に、はじめから勝っている。

無抵抗の体捌と同時攻撃、相手の無防備への攻撃、相手が抵抗できない。無抵抗にならざるを得ない。無抵抗になる。争う心がない。我と和合する、即ち、神武不殺。相共に生きる。相手を生かす。愛の武道。真の武道。真意の攻撃。直心の表現発露。相手は喜びを感じる。我は争はず、無抵抗、一兵も損傷なく、相手と和合。相手も無抵抗となり、闘争心消滅、我と和。みそぎ、みそがれ、靈魂の鎮めとなる。

道歌 正勝吾勝 御親心に合気して

殺い生かすは 己が御魂ぞ
氣のみわざ 魂のしずめや

みそぎ技 導き給え 天地の和
合気とは 愛の力をもちにして

愛は益々栄えゆくべし
合気とは よろず和合の力なり

たゆまずみがけ道の人々
合気とは 兼や口にはつくされず

言ふれせずに信り行へ

以上を片手取一教にして説明すれば、片手取とは正面打、突を想定した気結びの初歩である。

片手取を習得することは、正面打及対突の基本(5級、4級)の2つの体捌を修得することだ。

この片手取一教は本部審査規定にはない。理由を思うに、片手取一教を修得してから正面打一教を教えるのが順序であるから、審査技としては正面打一教が代表として出ている。前述の通り、片手取一教は正面打一教対突の体捌と最

良の攻撃を修得する近道だ。

体捌を考察するとき、すべては円流の捌だ。円、和合の心の表現の体捌だ。同時に不動心の表現たる、不動身の姿形の体捌だ。これを三角の心の表現と云う。四方に自在に変化して体捌。四角の心の表現だ。無抵抗なる故の必勝である。これを正勝晋勝、合気道の「○△□」の武道と云う。

身は丸く心は四方に不動心

体の捌は波のままに

以上 開祖の「無抵抗主義」。「無抵抗なるが成に、はじめから勝っているのだ。邪心、邪気、邪念ある人は、争う心のある人は、はじめから負けているのだ。(武座合気P.45上段)」

では、いかにして邪気をはらい、心を清くして、宇宙森羅万象と調和することが出来るか？

日常の稽古においては、力のある人も、力のない人も、男も、女も、正勝晋勝、ひたすら指導者に従い、相手を倒そう、勝とう、投げよう、と思わぬこと。只唯指導者に従い、大きく、ゆっくり、刀を入れて、形と動を見習う。大切に

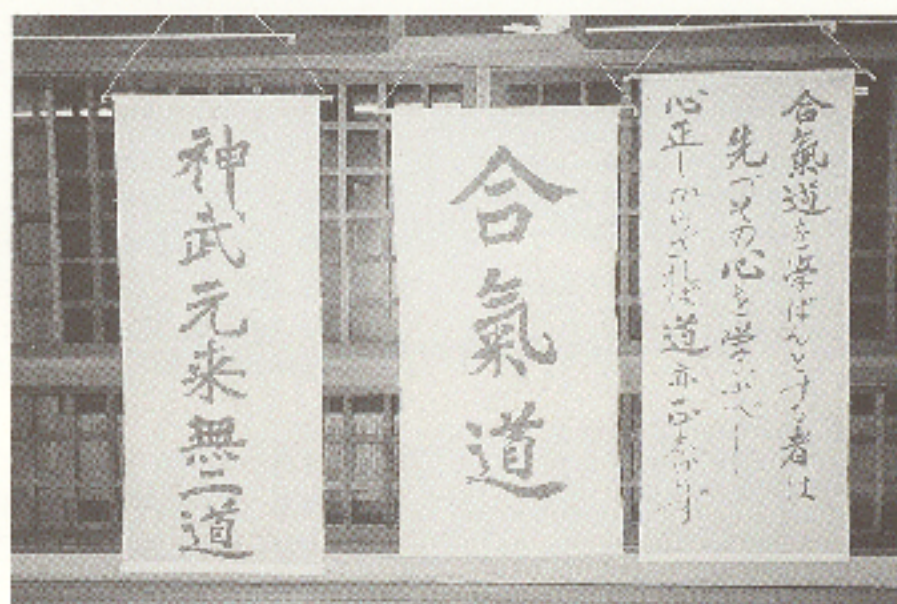
とは、正しい体捌と正しい姿形(体形)、正しいまなび心、である。

第25回全日本合気道演武大会(S62, 5)席上、元首相中曾根氏の祝辞の中で、「合気道は動く禅」と評価を頂いております。誠に有り難いことでもあります。中曾根元首相は、臨済禅の大家でありますから、「動く禅」に見えたのでしよう。邪念、邪気をはらい、心を清くして宇宙森羅万象と調和出来た、あの独特の体捌を評価したものでしょう。

日常の練習も、演武会の演武も、そのようにありたいものです。

実は、美しき、合気の姿、体捌になりたいものです。努力しましょう。

合気道の特徴は、この開祖の無抵抗の体捌と不動身の体形。正しい心は、正勝晋勝、宇宙と調和した心境だ。開祖の演武の姿形も、指導時の体捌も、いつでも、どこでも、型にはまった、極まった姿形。柔和で優しい。実に素晴らしい。万人の誰もがの評価だ。



闘争と勝負を越えた、正勝言勝速武産合気翁、
天村雲九鬼荒波羅龍王（好んでお書きになられた）、我即宇宙のみそぎの武道である。

大宇宙遍在の愛気と和合、一霊神円妙の大活動、二元氣陰陽に分かれて和合、氣結び（氣産靈）の妙働、二元神靈の神産靈の活動、四靈魂の情働、八大妙力の妙用の武道だ。倒さない、投げない、産靈日の行なのだ。

道歌 氣のみわざ 魂の鎮や みそぎわざ 導き給え 天地の神

合気道を学ばんとする者は
先づその心を学ぶべし
心正しからざれば
道亦正しからず

合 気 道 神武元来無二道 道 歌

美しき この天地の みすがたは
主の削りし 一家なりけり
氣のみわざ 魂の鎮や みそぎわざ
導き給え 天地の神
大宇宙 合気の道は 諸人の
光となりて 世をば開かん

祈り＝世界が合気で結ばれますように